

題：「OICの信仰声明 パート3:私たちは受肉された神の子イエス・キリストを信じています。」

テモテへの手紙第一 2 章 5 節 - 「神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。」

皆さん、お早うございます。皆さんに、またお会い出来て嬉しいです。3 か月前、私は大阪インターナショナルチャーチの信仰声明のメッセージ・シリーズを始めました。夏休み中、少し休みましたが、このシリーズを再開します。そして月 1 回、このトピックでこれからしばらくする予定です。キリスト教信仰が基本的な教理に支えられていることを、わたしたちに気づかせることは重要だと思います。ですから、このシリーズをします。

最初のメッセージで、私たちの信仰声明の最初をしました。そこでは、私たちは、「聖書が神の靈感による、誤りのない御言葉であることを信じます。」と宣言しました。

2 番目の信仰声明は、「全てをお造りになった一人の神、そして三位一体の神、すなわち父、御子、そして聖霊を信じています」でした。今日は、3 番目の声明をしたいと思います。それをスクリーンに映します。それを読みましょう。

イエス・キリストが、聖霊により宿り、処女マリアからお生まれになった、まことの神であり、まことの人となられた方であると信じる。また、聖書の御言葉どおり、この方は、私たちの罪のために、完全かつ成し遂げられたささげものとして、十字架上で亡くなられ、さらには、死からよみがえり、天へ昇り、大能者の御座の右に着座され、今、私たちの大祭司、あがないの主であると信じる。ルカによる福音書 1:34-35、テモテへの手紙 第一 2:5、ヘブライ人への手紙 8:1-2。

ここには、今日の説教の中で、私が注目し、ご説明したい幾つかのポイントがあります。最初に、イエスキリストは、神であり人間であるということです。まことに神であり、まことに人間であるということです。

二番目は、彼は、聖霊により身ごもった処女マリアから生まれました。彼の父は神です。人間の男性ではありません。このようにして、神なる父と人間の母によって、イエスは人間と神の両方でありうる事が出来ました。

三番目は、彼は、私たちの罪のための犠牲として十字架上で亡くなりました。全く完全なる犠牲でした。

四番目、5 番目、6 番目は、彼は死からよみがえりました。彼は天に上げられました。そして父なる神（大能者）の右に座しておられます。

七番目は、彼は私たちの大祭司であり、弁護者です。大祭司として、彼は私たちと神との間の仲介者です。弁護者として、彼は法廷での弁護士のように、私たちを擁護してくれます。

私たちの信仰声明は、これらの声明をサポートするために3つの聖句を引用しています。まずテモテへの手紙 第一2:5を読みましょう。- 「神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。」

次にヘブル人への手紙8:1-2を読みましょう。私たちの主であるイエスについて記されています。- 「以上述べたことの要点はこうです。すなわち、私たちの大祭司は天におられる大能者の御座の右に着座された方であり、²人間が設けたのではなくて、主が設けられた真実の幕屋である聖所で仕えておられる方です。」

三番目、ルカによる福音書1章を見ましょう。私たちの信仰声明は34節と35節を引用していますが、それよりも拡大して26-35節を読みたいと思います。今日の学び、つまりイエス・キリストの誕生、働き、そして彼の神格について見ることから始めたいので、ルカの福音書のこの聖書箇所から始めます。

ルカによる福音書1:26-35を読みましょう。- 「ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。²⁷ この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。²⁸ 御使いは、はいつて来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」²⁹ しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。³⁰ すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。³¹ ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。³² その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。³³ 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」³⁴ そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」³⁵ 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」

パート1: 処女懐胎とキリストの受肉

ここに、神の子が肉体をもった話があります。三位一体の二番目の位格です。「受肉」- この意味は、神が人間の肉体を取られたとということです。少し前、私は、イエス・キリストは、父として神を持ち、母としてマリアを持っている、つまりイエスは、神と人間の両方をお持ちであると話しました。処女から生まれたとする教義が、キリスト信仰の重要な教えです。

マタイがイエスの誕生の話をする時、これは、マタイの福音書 1 : 22 - 23 で結論として書いています。 - 「このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。²³ 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」 (訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

マタイが引用した預言者は、イザヤでした。イザヤ書 7 : 14 を読みましょう。 - 「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」

これは特別なしるしです：処女が身ごもり、子を産むことは非常に特別な事です。キリストの処女懐胎の教義について、イザヤ書にある、ヘブライ語の原語は「処女」の意味である必要は無いという指摘をする批評家もいます。ヘブライ語の「*almah*」は、単に「若い女性」の意味です。確かに、それはその意味ですが、当時の文化では、若い女性は処女であると考えられています。そして、旧約聖書がキリストの時代のすぐ後にギリシャ語に訳された時、翻訳者は、この単語 *almah* をギリシャ語の *parthenos* に置き換えて訳しました。*parthenos* は「処女」という限定的な意味があります。ギリシャ語の翻訳者たちは、イザヤがこの言葉の使い方によって何を意味するのかを理解していました：彼は処女を意味していたのです。*almah* という言葉が、単に若い女性を意味するということによって、処女懐胎の概念を払いのけることを願っている批評家たちは、預言のポイントを完全に見落としています。2 世紀のクリスチャン作家である殉教者ユスティノスは、これは特別なしるしを与えられていた、何が特別であるかと言うと、処女が身ごもり子を産むということであると指摘しました。このユニークな特徴なしでは、このしるしを何か注目すべきものであるとみなす理由がありませんでした。それが注目すべきことにさせているのは、処女懐胎なのです。

そしてキリスト教神学では、聖霊によって身ごもったことの重要性は、イエスが神から来られた方であり、罪の無いお方であることを意味します。確かにルカによる福音書 1 : 35 でこのように言っています「御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」 イエスは、聖なる御子と呼ばれています。

ヨハネの手紙第一 3 : 5 - 「キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。」

へブル人への手紙 4 : 15 - 「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」

イエスには罪がありません。そしてそれだけではなく、人間としての生きることも経験されました。罪に対する私たちの格闘を含む、人間の罪の状態も同情することができます。

ヘブル人への手紙 7:26-28 - 「また、このようにきよく、悪も汚れもなく、罪人から離れ、また、天よりも高くされた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。²⁷ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自分の罪のために、その次に、民の罪のために毎日いけにえをささげる必要はありません。というのは、キリストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し遂げられたからです。²⁸律法は弱さを持つ人間を大祭司に立てますが、律法のあとから来た誓いのみことばは、永遠に全うされた御子を立てるのです。」

26節は、キリストは聖であり、汚れのない大祭司であると言っています。27節は、彼は私たちの為に御自身を犠牲として捧げられたと言っています。これは、彼が私たちの代わりに、御自身を犠牲として捧げた大祭司であることを意味します。

パート 2: 人間として、そしてキリストとしての働き

私は、先ほど、私が持っている **The ESV Study Bible** には多くの資料がありますが、その資料からお話ししました。アリストア牧師は、これが、今日利用できる最高のスタディバイブルだと考えおられました。私もそれに賛同します。単にそれぞれの聖句の詳細な解説だけでなく、その各書の終りには、簡素で分かり易い形で書かれた多くの神学的小論文もあります。このスタディバイブルには、今日、皆さんとお分かちしたい2つの小論文があります。これらは、「人間としてのキリスト」と「キリストとしての働き」いう題の小論文です。最初の小論文の初めの文章を皆さんに引用させていただきます。

「4つの声明は、イエス・キリストの完全な聖書的イメージを獲得するために、理解され、かつ断言されなければならない。

1. イエス・キリストは完全にそして全く *神* である。
2. イエス・キリストは完全にそして全く *人間* である。
3. キリストの神として、そして人間としての本質は *別個* である。
4. キリストの神として、そして人間としての本質は、一人の人の中で完全に *結合* されている。

イエスが完全な神であると言うことは、多くの聖書箇所の中で証明されています。

ヨハネによる福音書 1:1 - 「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」

ヨハネによる福音書 20:28 - 「トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」」

ローマ人への手紙 9:5 - 「先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。」

ピリピ人への手紙 2:5-7 - 「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。⁶キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、⁷ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。」

テトスへの手紙 2:13 - 祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。

ヘブル人への手紙 1:3 - 「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。」

ペテロの手紙第二 1:1 - 「イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。」

(Crossway. “ESV® Study Bible.”からの抜粋)

「上記のように、キリストの神性に明確な教えを聖書から引き合いに出しても、この真実はしばしば、難題である。イエスは、御自身を一度も神であるとは宣言されなかったと言う人々もいる。…しかしながら、福音書では、イエス御自身の神性について、イエスの理解は、考えを支持していない。彼は明確に、彼自身を神として見ておられた。これは、主に6つの方法によって見ることが出来る。

1. イエスは、*神の権威*によって教えた。山上の垂訓の最後に、「群衆はその教えに驚いた。²⁹というのは、イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである。」(マタイ 7:28-29)...

2. イエスは、*父なる神と独特の関係*を持っていた。彼が少年だった時、イエスは神殿の中で宗教指導者たちと一緒に座っておられ、彼がするその答えに人々は驚いていた... (ルカ 2:49)。「私の父」というイエスの神への言及は、独特で父なる神との親密な関係であるという、斬新な声明である。それは、イエスが、すでにその関係を完全に意識していた。そのような個々の言及は、ユダヤ文学の中では先例のないことだった。

3. イエスの好んだ自身の称号は*人の子*だった。「人の子」という言葉は、単に「人間」という意味だったかもしれない。しかしイエスは、彼自身を「人の子(独特でよく知られている人の子を暗示する)」として言及する。それは、彼が彼自身を、ダニエル書7章にあるような、永遠に全世界を支配するメシア的人の子として見ていることを示している。

4. イエスの教えは、*彼自身の神性を強調*した。イエスは、神の国とその国の王であることを教えるために来た。

5. イエスは、*礼拝されることを受け入れた*。イエスが、神であることを、恐らく、イエスが信じている、最も抜本的な証明は、彼が時々彼が礼拝され時、その礼拝を受け入れた事実である。(マタイ 14:33; 28:9, 17; ヨハネ 9:38; 20:28). ...

6. イエスは、ユダヤ人指導者たちはイエスが神を冒瀆していると結論付けたように、*彼自身が父と一つである*と言った。

(Crossway. “ESV® Study Bible.”から抜粋)

この最後の点が特に興味深いと思います。批評家は、イエスは神であると主張しなかったと言いたいのです。しかし、イエスの時代の宗教指導者たちは、イエスの言葉が意味することを正確に知っていました。これらのいくつかを読んでみましょう。

ヨハネによる福音書 5:17-18 – 「イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」¹⁸ このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。」

ヨハネによる福音書 8:58 – 「イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」

「イエスが「私は在る者です」と言われた時、イエスは出エジプト記 3 : 14 で神が御自身の名前をモーセに現した時「『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた。』と。言いなさいと言われた。民は、イエスが言わんとすることを理解しました。それ故、59 節にあるように、イエスに投げつけるために石を取りました。

ヨハネによる福音書 10:30-33 – 「わたしと父とは一つです。」³¹ ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。³² イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」³³ ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのためにあなたを石打ちにするではありません。冒瀆のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」

さて、イエス・キリストの神性が聖書の中ではっきりと教えられていることを示すのに十分な情報を皆さんと共有したと思います。今日のメッセージの次の部分に移りましょう。

パート 3: イエス・キリスト、私たちの罪のための完全な犠牲

これは、私たちの罪のための罰金を支払い、私たちを創造主との正しい関係に戻すための、私たちに代わってなされたキリストの主な働きです。私たちはこれを、私たちに代わってなされた贖罪の業と呼んでいます。

贖罪：その言葉を注意深く見て見ましょう。「AT (で【状態】)」…「-ment (結果、状態・動作・手段などを表す名詞を作る)」. この二つをつなげて「at one (一体)」となるために。二つの以前の敵同士が互いに平和をつくる時、彼らは、今「一体」になることができる。これが、贖罪の最も重要な特質です。

私の ESV Study Bible がこのことについて言っていることを読みましょう。

「贖罪は、救いの歴史において神の中心的な働きである (1 コリント 15:4)。贖罪は、さもないと彼らの罪が招く懲罰を回避することによって、敵を友にさせることである ... 贖罪の核心は、彼らの代替えの犠牲として、キリストが罪人の位置に御自身を置き、神の怒りに耐えることである。このことは、コリント人への手紙第二 5 : 21 とイザヤ書 53 : 4 - 5 のような、聖句を根拠としている。」

(Crossway. "ESV® Study Bible." から抜粋)

コリント人への手紙第二 5:21 を見ましょう。 - 「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」

そして、旧約聖書の有名な「苦難の僕」の預言の中に、このことを読むことができます。イザヤ書 53:4-5 - 「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになつた。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。⁵しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」

天の父なる神のもとに着座されたキリストと共に私たち信じる者達も共におらせてくださるゆえに、信じる者達が罪から解放されると言う、神の力を体験することができる。エペソ人への手紙 2:5-6 イエスキリストが神であり、人であって、贖いを完成させてくださったことにより、人間にこのような素晴らしい恵みを与えてくださった神に感謝！

パート 4: イエス・キリストは、復活され、昇天され、そして父なる神の右の手に着座されている。

キリストの復活と天への昇天に関するメッセージの前に、私は皆さんと、幾つかのメッセージを分かち合いました。イエスの復活は、イエスが罪と死を打ち負かされ、墓に打ち勝たれたことを証明しています。使徒パウロからキリスト教の福音の基本の要約を読みましょう。

コリント人への手紙第一 15:3-8 - 「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、⁴また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、⁵また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。⁶その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。⁷その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。⁸そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。」

キリストは、復活され、何百人もの人に見られました。私の学生時代、キリスト教の福音を信じるべきかどうかの問いに悩んでいた時、イエスの復活を目撃したこれらの人々の生活の変化が、このメッセージの真実性を示しており、それが私を納得させました。彼らが見たものは、彼らの人生を変えるほどの影響を与えました。彼らは、この福音のメッセージのための伝道者となりました。そして彼らの多くは、その福音の為に、殉教しました。聖霊が、彼らのミニストリーを活気付け、そのメッセージは世界中に広がり、数えきれな

い人々と社会に影響を与えました。このことによって、この話は真実であり、私自身もこのメッセージに信頼を置けるといいう自信を与えてくれました。

使徒の働き 1 章で、ルカは、イエスが 40 日間、彼の弟子たちと共に過ごされたと告げています。そして天に昇られました。使徒の働き 1:9-11 を読みましょう – 「こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。¹⁰ イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。¹¹ そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

イエスは、栄光に満ちた人の体をもって、父なる神の右手に着座されて、今天におられます。ヘブル人への手紙 1:3 を読みましょう – 「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。」

今日の説教の締めくくりに使徒信条を朗読したいと思います。これは、キリスト教信仰の本質的な教義のいくつかについての満足のいく簡潔な声明です。

使徒信条

わたしは、天地の造り主（つくりぬし）、全能の父なる神を信じます。

わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、処女（おとめ）マリアから生まれ、ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、陰府（よみ）にくだり、三日目に死者のうちから復活し、天に昇って、全能の父なる神の右に座しておられます。そこから来て、生きている者と死んでいる者とを審（さば）かれます。

わたしは、聖霊を信じます。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠（えいえん）のいのちを信じます。

アーメン

— 日本聖公会「祈祷書」より